



女神社

祭神は、小手姫・伊佐奈美命・小笹媛の三柱で、社は間口一間、奥行一間弱、小さいながらも樺づくりの立派なものです。創建は後醍醐天皇の御宇と伝えられています。

女神神社の北方百メートル、斎藤氏の裏手に「ミダラシ」とも「鏡池」とも呼ばれる水面六平方メートル、深さ一メートルほどの泉があります。現在でも清水が湧出、どんな旱魃にも涸れることがありま

せん。

伝説によると、小手姫がその水を飲み、水面にて容姿を整えられたので鏡池と言うとも、また、小手姫が髪をくしけずり、面貌を飾るのは誰がためぞ（この地には、わが夫とするに足る男がない）と嘆かれて鏡を投じた池であるとも言われています。

この泉の水は、女神神社・女神山々頂の小手姫神社の御神水として捧げられるほか、病氣平癒の卜占などとして信仰を集めてきました。

この女神神社には年経た刀が御神刀として奉納されています。長さ七五センチ、幅三センチ程で鉄製ですが、腐食が激しく原型を推察するのが困難です。大糠塚古墳から出土したものと伝えられています。が製作時代なども今のところ不明です。

境内には、石灯笼二基のほか、「蚕養神社」や「廿六夜塔」の石塔も建てられ、清楚な中にも氏子の社に寄せる愛着の深さが偲べれます。